

平和島のつどい

八月二十五日(土)～二十六日(日)

テント宿泊で キャンプを囲み
交流を深めよう

参加者
小学四年生以上



元年8月5～6日に開催された
平和島のつどいの様子

「ほら、こんなにたくさんみんな僕が割った薪だよ。」
「包丁って、手を切りそうでおっかないね。でも野菜切るのにおもしろいね。」
「本当においしいカレーが出るのかって心配だったけど、すっごくうまいや。」
「数限りなく出て来る子供たちの声。そして輝く喜びと驚きの目と表情。きょう出会った初めての友達と一緒に、歌ったり踊ったり、燃え上がる炎にほお染めて、思いつき騒ぐキャンプファイアーのひととき。疲れ

ふれあいと 対話が交る

明るい社会

第40回 社会を明るくする運動
7月1日～31日

社会を明るくする運動は、すべての国民が、犯罪の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれ立場において力を合わせ、犯罪のない明るい社会を築こうとする全国的な運動です。今年重点目標は「少年の非行防止と更生の援助のため地域住民の理解と参加を求め

これに対処するためには、家庭、学校、職場及び地域社会が一体となって、失われたらえらせ、犯罪を誘発しないような社会をつくることです。そして、少年の徳性や規範意識の醸成と、非行に陥った少年の更生を図るために、地域住民の理解と参加をねがって、対話集会を積極的に開催するなど、幅広い活動を展開していく必要があります。

この運動期間中には、全国的に様々な行事が行われます。大田区でも、七月五日に大田区民センターで中央大会が開かれました。PTAコーラス、講演、作文、意見発表などが行われましたが、作文発表では大森十中の鈴木拓斗君が「幸福な社会をめざすためには」の題で力強い発表を行いました。

平成3年度 第40回
くする運動大田区中
大田区民センター

鈴木拓斗君の作文発表

のままにぐっすり眠る子あり興奮さめ切らずテントの珍しさに出入りを繰り返したり遠くまでのトイレを往復したりする子。しかし、さすがに夜半過ぎには、どのテントも静かに落ち着き、引率の委員を安心させてくれます。

原小・松仙小の二か所からバスで出発、平和島に向かいます。到着後すぐ開村式を行いジュニアリーダーの指導でテント張り、飯盒炊さん、キャンプファイアー等々、十二分に楽しむのです。翌二十六日は正午近く開村式を終えて、またバス二台に分乗し出発地のそれぞれの学校まで戻って解散となる予定です。小学四年以上が参加対象となつていますが、成長期の子供にとつて貴重な体験の機会です。また夏のおき思い出ともなりま

久が原は 花の街

私の住んでいる久が原は、四季折々の花が、道すがら楽しめます。寒椿、山茶花が咲き二月の沈丁花の頃は、夕方からほのかな甘い香りに包まれます。梅の香、そして、あざやかなれんげい色の黄色、忘れてならないのは桜、今年少し早く咲き過ぎて、入学式は花吹雪の中で行われたようです。

藤の香りもまたすてき、人間も蜂の如く花房に顔を近づけたくなります。八重桜も厚い花びらを重ねます。つつしはおおむらさきが先に咲き次々に小さなつつしが花を開きます。その頃垣根のつるハラはハラハラと花びらを散らします。ていかかずらも風車のような花をつけ、レモンのような爽やかな香りを放ちます。

こうして六月を迎えます。冬から春、半年の間だけで、しかも人目につくところの花々を思いつくまま拾うだけでもこの通りですから、私のような花好きにはこたえられませんが、残念なことが一つ。亭主はちつとも花の楽しさを理解している様子がありません。口先では「ああ、きれいだね」というけれど、ただそれだけ。もう一歩深く楽しむことを知りません。花の命がどんなものか、一つ一つの花の個性がどれほど豊かなものであるか、それを知らなければ本当に楽しむ気が育くまれないと思

情報紙「くがはら」は、私たち十三名が担当します。よろしくお願いたします。

- ◇川又 浩
- ◇小田カヨ子
- ◇松田光生
- ◇伊藤英子
- ◇菱山和民
- ◇新井信子
- ◇三木栄任
- ◇高橋房子
- ◇醍醐英明
- ◇出張所職員

編集後記 地区推進委員会から「くがはら」を発行する運びとなり、文化などを盛り込んだ近々発行の予定です。発行は、年四回程度を考えています。地域の情報紙として、ご愛読いただくと共に感想などもお寄せください。なお、題字は、当委員会会長三木兼吉氏によるものです。(かわまた)

わがまち大田久が原地区 推進委員会について

大田区では、二十世紀の都市像として、「安全で快適な活力と思いやりのある文化福祉都市」の実現のため、各種の施策を展開して

役割

大田区では、二十世紀の都市像として、「安全で快適な活力と思いやりのある文化福祉都市」の実現のため、各種の施策を展開して

委員会から皆様へ

天ぷら火災にご注意
天ぷら火災は揚げている最中に起こる火災が大へん多くなっています。天ぷらを揚げ始めた絶対対にその場を離れない、離れるときは、必ず火を止め、火災の防止に努めましょう。